

## 【ワークショップC】

### 子どものレクリエーション「紙飛行機」

片貝医院院長

根本 忠

紙飛行機というと広告の紙などで作った折り紙飛行機を思い出す方が多いと思います。しかし、材料を良質なケント紙にひろげ、丁寧にはさみやカッターでパーツを切り出し、セルロース系接着剤で貼り合わせて作った本格的な紙飛行機は、野球場でも狭いくらいによく滞空し高性能ぶりを発揮します。昭和 42 年、60 年に行われた国際紙飛行機大会では二宮康明先生、故吉田辰男先生が滞空時間や飛行距離、曲技部門で優勝し、紙飛行機文化が発展しました。

ところが、これらの滞空競技用の機体は寸分狂わぬ切り出し、接着などの高度な工作技術や長い製作時間、細かな調整技術も要求されます。一方で昭和 49 年に発表されたいわゆる「吉田式切り折り紙飛行機」は短時間で簡単に作れて、すぐに飛ばすことができます。かつ、翼面に絵を施したり、鳥や昆虫、魚、植物の種子、抽象的な流星型などの様々な形を切り出したりすることで多彩な機体を作ることができます。「吉田式切り折り紙飛行機」は自分の手でモノを作る喜びを味わえる点、様々な形の機体を作ることで独創性が養える点、航空力学という科学が自然に身につく点、飛び方を見て何度も調整する観察力や忍耐力が身につく点で、子どものレジャー・レクリエーション活動の教材として極めて意義のあるものだと考えています。今回のワークショップでは「吉田式切り折り紙飛行機」を一緒に作ってみましょう。

根本 忠（ねもと ただし）プロフィール

昭和 37 年岐阜県岐阜市にて出生。小学校 6 年からケント紙を使った本格的な紙飛行機製作を始める。大学生の頃に武蔵野グリーンパーク（現武蔵野中央公園）で二宮康明氏や葉阪豊氏、故吉田辰男氏らに出会い、紙飛行機の細かな調整法を師事する。現在、新潟県小千谷市片貝町の片貝医院院長、医学博士。